

## 令和4年度 第42回卒業証書授与式 式辞

厳しい冬の時期を越え、確かな春の息吹が感じられるこの佳き日に、多くの保護者の皆様のご列席の下、令和4年度、第42回磐田市立南部中学校の卒業証書授与式を挙げていきますことを心より嬉しく思います。

また、本日は、磐田市教育委員会、文化財課長 竹内直文様のご臨席を賜り、本校卒業式が挙げていきますことに、心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

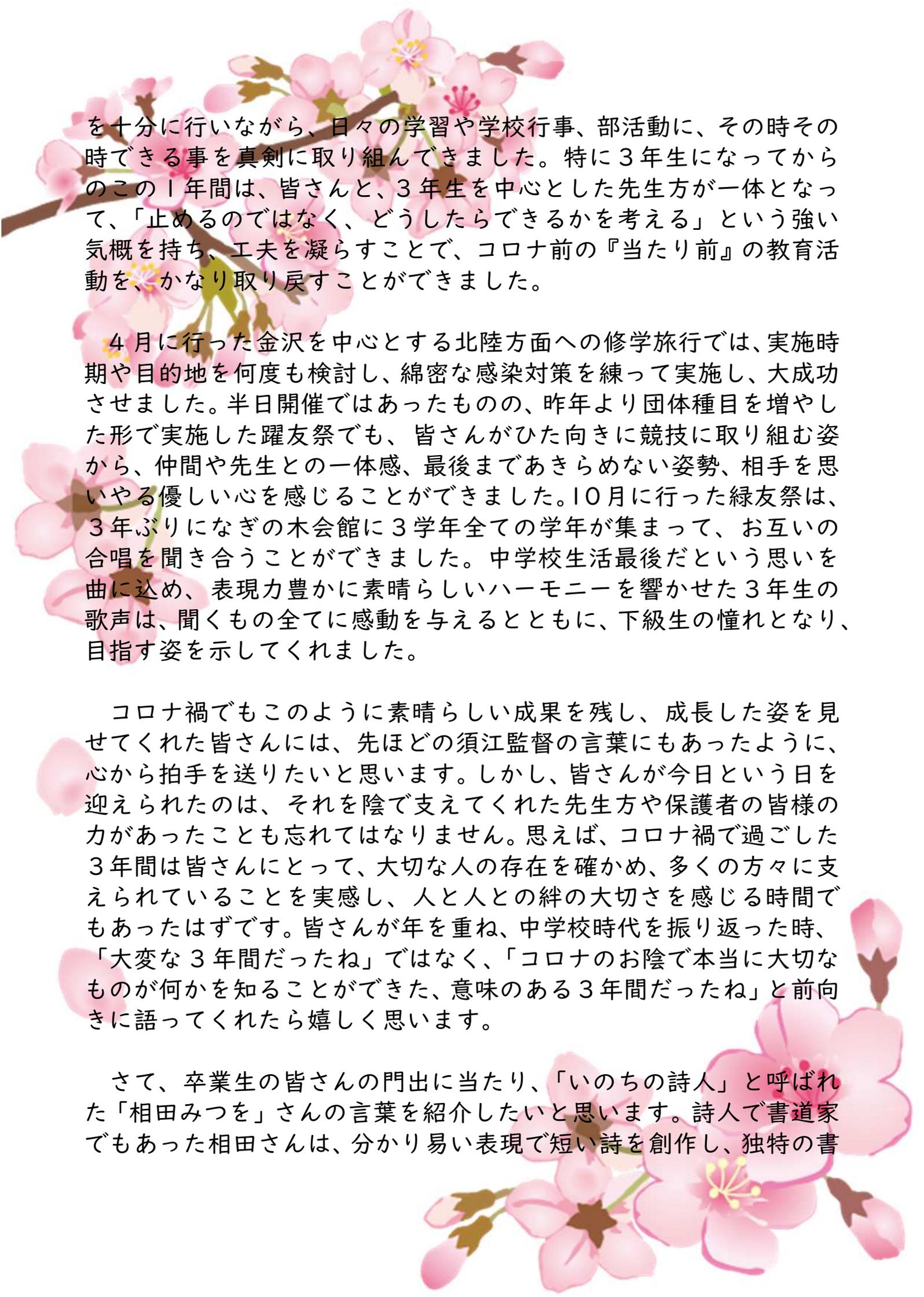
ただ今、卒業証書を授与しました卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは今日この南部中学校を卒業すると共に、本日をもって小学校6年間を含む、9か年の義務教育の全てを終了することになります。ここまでの皆さんのたゆまぬ努力と研鑽を心から讃えたいと思います。

思い返せば、皆さんの中学校生活は、入学式直後から5月下旬まで臨時休校となり、学校再開後も、マスクの着用、三密の回避、昼食時の黙食の徹底、学校行事や部活動の大会中止や縮小など、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた三年間となりました。

昨年夏甲子園球場で行われた、全国高校野球選手権大会で、東北勢として初優勝した、宮城県の仙台育英高校野球部の須江航（すえわたる）監督が当時の優勝インタビューでこのような話をしていました。

「青春って、すごく密なので。でもそういうことは全部ダメだ、ダメだと言われて。活動していても、どこかでストップがかかって、どこかでいつも止まってしまうような苦しい中で、でも本当にあきらめないでやってくれたこと、でもそれをやっていたのは僕たちだけじゃなくて、全国の高校生のみんなが本当にやってくれて。本当に、すべての高校生の努力の賜物が、ただただ最後、僕たちがここに立ったというだけなので、ぜひ全国の高校生に拍手してもらえたらなと思います。」

これはまさに、南部中の3年生の皆さんにも言えることだと思います。このようなコロナ禍でも、皆さんはこの3年間、感染防止対策

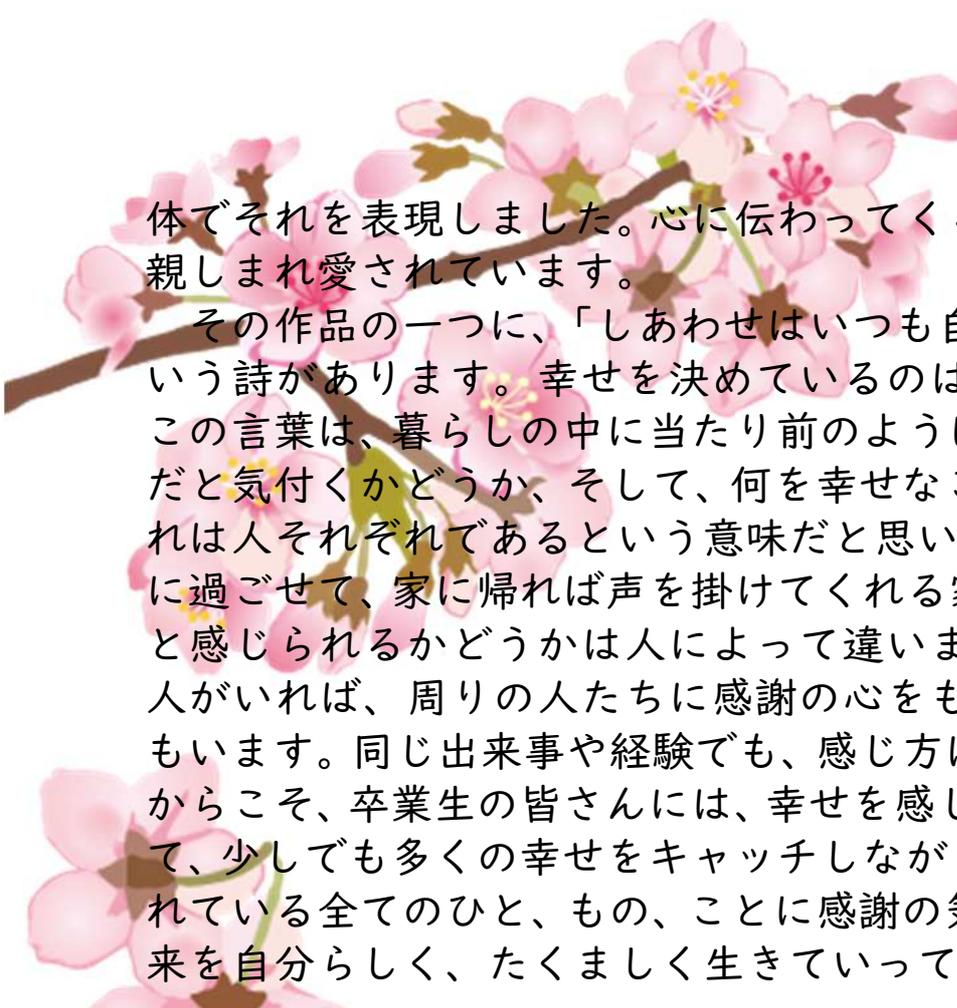
A decorative background of pink cherry blossoms with green leaves and brown branches, scattered across the page.

を十分に行いながら、日々の学習や学校行事、部活動に、その時その時できる事を真剣に取り組んできました。特に3年生になってからのこの1年間は、皆さんと、3年生を中心とした先生方が一体となって、「止めるのではなく、どうしたらできるかを考える」という強い気概を持ち、工夫を凝らすことで、コロナ前の『当たり前』の教育活動を、かなり取り戻すことができました。

4月に行った金沢を中心とする北陸方面への修学旅行では、実施時期や目的地を何度も検討し、綿密な感染対策を練って実施し、大成功させました。半日開催ではあったものの、昨年より団体種目を増やした形で実施した躍友祭でも、皆さんがひた向きに競技に取り組む姿から、仲間や先生との一体感、最後まであきらめない姿勢、相手を思いやる優しい心を感じることができました。10月に行った緑友祭は、3年ぶりになぎの木会館に3学年全ての学年が集まって、お互いの合唱を聞き合うことができました。中学校生活最後だという思いを曲に込め、表現力豊かに素晴らしいハーモニーを響かせた3年生の歌声は、聞くもの全てに感動を与えるとともに、下級生の憧れとなり、目指す姿を示してくれました。

コロナ禍でもこのように素晴らしい成果を残し、成長した姿を見せてくれた皆さんには、先ほどの須江監督の言葉にもあったように、心から拍手を送りたいと思います。しかし、皆さんが今日という日を迎えられたのは、それを陰で支えてくれた先生方や保護者の皆様の方があったことも忘れてはなりません。思えば、コロナ禍で過ごした3年間は皆さんにとって、大切な人の存在を確かめ、多くの方々に支えられていることを実感し、人と人との絆の大切さを感じる時間でもあったはずです。皆さんが年を重ね、中学校時代を振り返った時、「大変な3年間だったね」ではなく、「コロナのお陰で本当に大切なものが何かを知ることができた、意味のある3年間だったね」と前向きに語ってくれたら嬉しく思います。

さて、卒業生の皆さんの門出に当たり、「いのちの詩人」と呼ばれた「相田みつを」さんの言葉を紹介したいと思います。詩人で書道家でもあった相田さんは、分かり易い表現で短い詩を創作し、独特の書



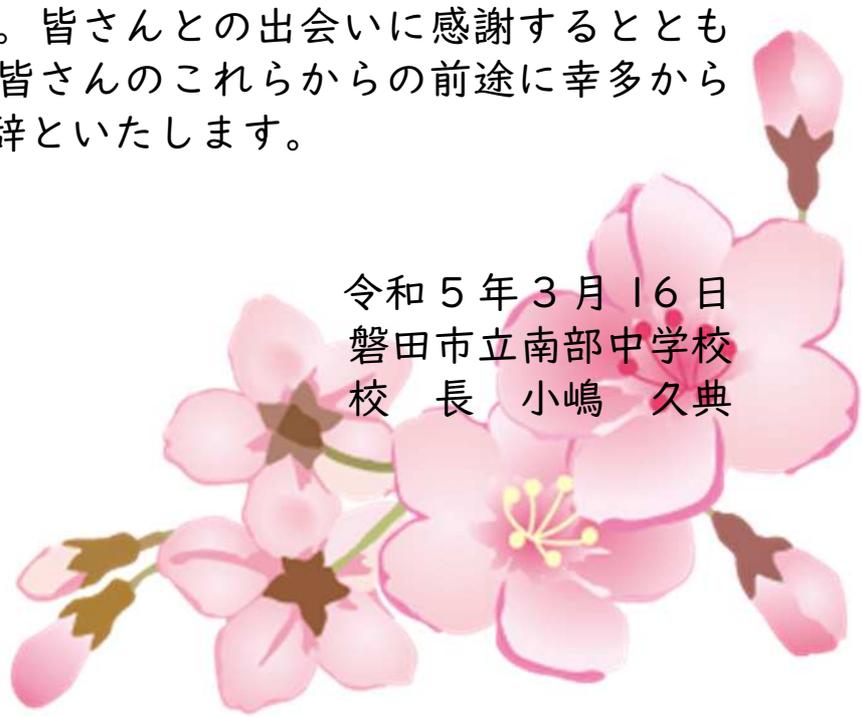
体でそれを表現しました。心に伝わってくるその作品は、多くの人に親しまれ愛されています。

その作品の一つに、「しあわせはいつも自分のところが決める」という詩があります。幸せを決めているのはいつも自分の心だということ。この言葉は、暮らしの中に当たり前のようにあることを、幸せなことだと気付くかどうか、そして、何を幸せなことと価値付けるのか、それは人それぞれであるという意味だと思います。例えば、一日を無事に過ごせて、家に帰れば声を掛けてくれる家族がいる、それを幸せだと感じられるかどうかは人によって違います。不満ばかり口にする人がいれば、周りの人たちに感謝の心をもって幸せに生きている人もいます。同じ出来事や経験でも、感じ方は人それぞれなのです。だからこそ、卒業生の皆さんには、幸せを感じるセンサーの感度を上げて、少しでも多くの幸せをキャッチしながら、自分に幸せを与えている全てのひと、もの、ことに感謝の気持ちを忘れず、自分の未来を自分らしく、たくましく生きていってほしいと思います。

保護者の皆様、本日はお子様の御卒業本当におめでとうございます。15年間のさまざまな喜びやご苦勞を思い出されると共に、立派に成長したお子様の姿にその感激もひとしおのことと思います。

また、今日まで、本校の教育活動にお寄せいただきました御理解と温かい御支援に対しましても、心からお礼を申し上げるとともに、卒業生のこれからを温かく見守っていただけますようお願い申し上げます。

卒業生の皆さん、私たち教職員一同は、皆さん一人ひとりの成長と活躍を心から応援しています。皆さんとの出会いに感謝するとともに、夢に向かって進んでいく皆さんのこれらからの前途に幸多からんことを心から祈念して、式辞といたします。



令和5年3月16日  
磐田市立南部中学校  
校長 小嶋 久典